

シマムセンオーディオ試聴会 (2019.9.21)

—Phaseation 新製品 CM-2000 & EA-350 試聴会—

1. はじめに

シマムセンで開催された Phaseation 新製品 CM-2000 & EA-350 試聴会に行ってきました。

2. 使用機器等



Phaseation PHASEATION 新製品 試聴会

**新製品**

フォノアンプ  
**EA-350** メーカー定価 ¥390,000税別

パッシブアッチネータ式コントローラー  
メーカー定価  
**CM-2000** ¥1,500,000税別

その他使用機材

MCアンプトランス **T-2000**

11.5W/2000W出力から10Wから10Wまで  
**MA-1500**

同仕様機材付4チャンネルアンプ  
**CA-1000**

フォノアンプ **EA-1000**

フォノアンプ **EA-300**

MCアンプトランス **T-500**

電源フィルター  
MCカートリッジ **PP-2000** 他

スピーカーシステム  
SonusFaber  
Serafino Tradition

日時	2019年9月21日(土) 15:00~17:00
場所	CYMA (シマムセン別館) 2F イベントルーム
講師	メーカー担当者

内容	Phasemation の新製品「CM-2000」「EA-350」を Phasemation のアンプ類で「最新」のアナログをお聴き頂きます。 スピーカーは「SonusFaber Serafino Tradition」をご用意いたします。	
機材	パッシブアッテネータ式コントローラー	Phasemation 「CM-2000」
	フォノアンプ	Phasemation 「EA-350」
	MC 昇圧トランス	Phasemation 「T-2000」
	管球式(300B シングル)モノラルパワーアンプ	Phasemation 「MA-1500」
	3 管体構成管球式コントロールアンプ	Phasemation 「CA-1000」
	フォノアンプ	Phasemation 「EA-1000」
	フォノアンプ	Phasemation 「EA-300」
	バランス型フォノ入力対応 MC 昇圧トランス	Phasemation 「T-500」
	MC カートリッジ 他	Phasemation 「PP-2000」
	アナログプレイヤー	GLANZ トーンアーム使用オリジナルプレイヤー
	スピーカー	SonusFaber 「Serafino Tradition」



当日のセッティング



アナログプレイヤー

### 3. 試聴の経過

開始前にオリジナルプレイヤーの構成をお聞きしましたが、VictorのTT-77をGLANZオリジナルのステンレスとカーボンの積層ボードにマウントし、アームはGLANZのMH-124Sに窒化処理を施した特別仕様のものとのことでした。GLANZのアームの設計仕様に関する意見交換も行いましたが、同じような印象でした。最初に使用機器の説明があり、試聴は各機器の設計方針と仕様の説明を加えながら進行しました。

最初は、EA-350のフォノアンプを使用して、カーペンターズとベースとギターのデュオがかかりましたが、いずれも自然で強調感がなく、S/Nが良くて見通しの良い音がしていました。

次の小椋佳では、EA-350からEA-1000に替えて、EA-1000の内臓トランスと、T-500を発展させたT-2000のトランスを通した音との比較になりましたが、後者では、声の自然な響き具合が一層引き立ち、声の細かいニュアンスや音場感も向上することが分ります。

こういったトランス開発のノウハウを生かす方向で、抵抗切り替えとトランスを組み合わせた、パッシブアッテネータ式コントローラーCM-2000に進んだ経緯の説明があり、ここまで使用してきた、3筐体構成管球式コントロールアンプCA-1000との比較に移りました。

ムジカエテルナのマーラーの6番とエレキのロックがかかりましたが、CA-1000も悪くはないのですが、こうして比較していくと、マーラーの6番では、CM-2000の強調感がなく、自然で微妙な中間色まで描き出す、鮮度の良さが目立ちました。ロックの方も、CM-2000の効果は、エレキの切れ味はもちろんのこと、拍手の音やバックのピアノの自然な印象まで及んでいます。

このままの組み合わせで、マイルス・デイヴィスやダイアナ・クラールがかかりましたが、こういった曲に馴染みがなくともリアルさが伝わってきます。

この時点のラインアップは次のとおりです。

**PP-2000→T-2000→EA-1000→CM-2000→MA-1500**

ステップアップトランス、CM-2000 内蔵トランス、MA-1500 のトランス結合のトランスと出力トランスの4つのトランスを経由していますが、トランス、即ナローレンジという旧来の概念は通用しません。また、フォノアンプやパワーアンプに真空管を使いながら、残留ノイズを感じさせないことも印象に残りました。

最後に、ヤマハオリジナルのデジタル録音の国内オーケストラのシェラザードとブリティッシュロックがかかり、10W のシングルアンプとは思えない迫力が伝わってきました。しかし、シェラザードでは、オーケストラの技量の程度や初期のデジタル録音の欠点まで分ってしまいました。

#### 4. まとめ

Phasemation の音の秘密は、トランス開発に関する、バランス伝送の巻き方やケースの選定などのオリジナリティとその巧みな使い方であり、そのことがトランスを使用した製品すべてにおいて、微小信号を損なわず、ワイドレンジを確保した音質に反映されていることが分りました。

以上